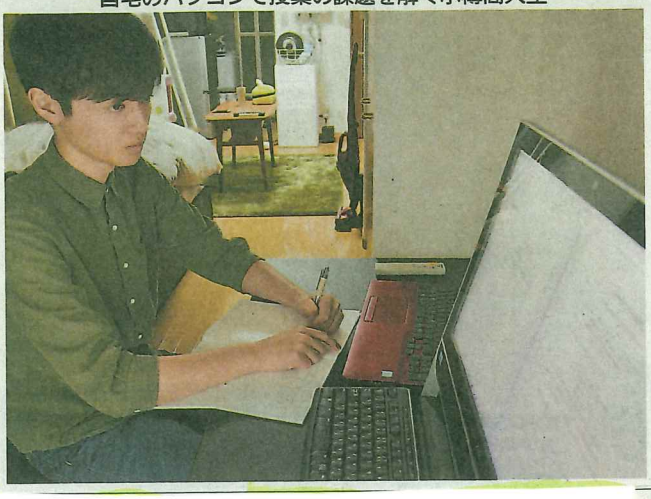
令和2年7月9日　北海道新聞　朝刊
3年　山口駿さん　掲載記事

オンライン授業長期化

学生歓迎、教員苦心　継続の可能性も

樽商大

新型コロナウイルス感染拡大の懸念から、学内での授業を休止している小樽商科大でオンライン授業が長期化している。5月から開講し、8月上旬までの前期中は継続する。授業動画を「繰り返し見られる」と学生が歓迎する一方、教員には学生の理解度を測りづらいなどの懸念もある。後期も継続する可能性があり、同大は課題を抽出して改善する考えだ。（前野貴大）



自宅のパソコンで授業の課題を解く小樽商大生

「通常の授業は聞き逃したら終わりだが、動画は何度も見られるので知識が定着する」。3年の山口駿さん(21)＝札幌市在住＝は自宅で授業動画を見ながら言った。週6日で計11科目を履修。うち2科目はリアルタイム、8科目が録画した動画配信、1科目がレジュメ配布のみの授業だ。

とりわけ便利なのが動画の授業。実際の講義時間以外も視聴でき、就職に向けた活動もする山口さんは「忙しくても欠席しなくていいので助かる」と話した。

同大は5月上旬から前期で行う約380科目の9割以上を開講。うち4割がテレビ会議アプリなどを使ったリアルタイム、5割が録画した授業動画などの配信、一部がレジュメ配布などで、これらを併用する科目もある。ある男子学生(3年)は「リアルタイムの講義では議論もでき、通常と遜色ない」と話す。

ただ動画の場合、教員から学生の反応が見えない課題もある。片桐由喜教授(社会保障法)は資料とともに解説の音声を配信。事前録音のため「学生が理解していなくても立ち止まれない。お経のようで疲れる学生もいるかも」と話す。

8月に行う学期末試験にも懸念がある。原則オンラインで行い、記述式や選択問題を課す予定だが、カンニングなど不正行為は見つけづらい。片桐教授は「性善説に立つしかない」と強調。ある男性准教授は「理解度を公平に評価できない恐れもある」と漏らした。

同大は感染の懸念が払拭されなければ、後期もオンライン授業継続を検討。今月中に方針を示す考えで「課題を洗い出し有効な方法を探りたい」としている。

令和2年7月9日　北海道新聞　朝刊
本学OB関連記事

エア・ドウ 地場産で消毒

小樽・田中酒造のアルコール使用

AIRDO（エア・ドゥ）は、利用客の手指の消毒や機内消毒に使うアルコールを田中酒造（小樽）が製造する商品に順次切り替える。地域貢献が狙いで、1日から函館、旭川、釧路、女満別の4空港を皮切りに、搭乗口に置き始めた。

機内消毒は夜間に行い、8日から新千歳空港で使用を開始。1カ月の使用量は約100リットルに上る見通し。

エア・ドゥはこれまで、国内消毒液メーカーの商品を使っていた。

田中酒造は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、5月に消毒液の代わりとなるアルコール度数の高い酒の製造を始め、一般に販売している。

田中酒造の岡田栄造専務は「コロナが早く収まり道内観光に勢いが出るよう、お役に立てれば」と話す。エア・ドゥは「『北海道の翼』として地域貢献を果たしていきたい」（CSR企画推進室）としている。

（本庄彩芳）